鉄黒コート使用方法

【準備するもの】

①種籾
②黒顔料(HY-355) 5kgPE袋入
③バインダー(専用消石灰) 1kgPE袋入
④水(造粒用)

機械と用具
⑤セメント用ミキサー(上下方向・回転速度・可変型が望ましい)
⑥散水器(農薬用噴霧器でも可)
⑦フタ付ポリバケツ(資材を混ぜ合わせるため)
⑧ヘラまたはスコップ
⑨保護用メガネ・マスク・手袋

※種子消毒済の籾をご使用ください。熱が出ないので温消毒はできません。
※積算温度約80℃～90℃で前処理した籾(鳩胸・催芽籾)も造粒できます。

※鉄コーティングを利用されていた方は「焼石膏」で代用可能です。

〈原料開封後の措置について〉
・黒顔料HY-335は、テープか輪ゴムで封をし、乾燥した場所に置けば永年品質の劣化はございません。
・バインダー(専用消石灰)は、その性質上吸湿硬化しますので、開封後の残りは畑などに散布して下さい。

【作業場所】 雨漏りのない乾燥した場所（原料の置き場所も同様）

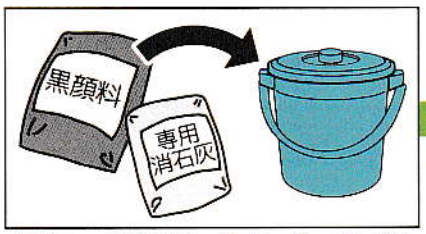
【標準原料配合比（当社推奨）】

籾（乾燥ベース）	：	黒顔料（HY-335）	：	バインダー（専用消石灰）
1		0.5		0.1

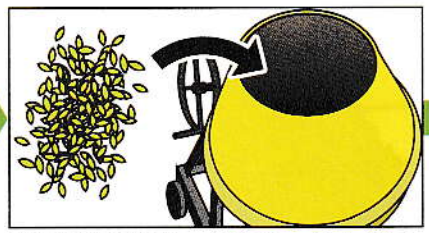
（籾10kgの場合→ 籾10kg ： 黒顔料5kg ： バインダー1kg）

※WSC用イネのような種籾が食用イネよりも大きい籾の場合、配合が10：2.5：0.5で仕上がります。
※標準配合表の10：5：1の場合は、当社の梱包パックを開封してそのまま利用できます。
※基本的には経験の慣れ・不慣れがあり、自由裁量で使用しやすいように使用者様がお決めください。

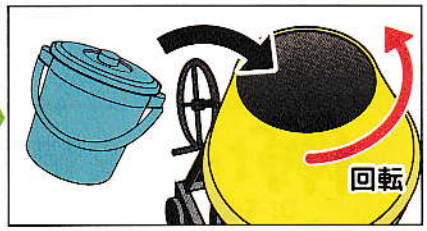
【コーティング作業工程】



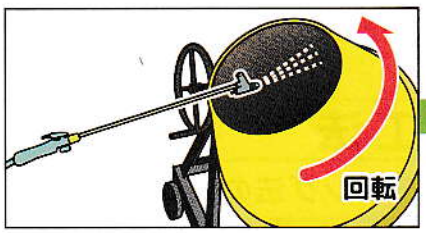
初めに、黒顔料とバインダーをポリバケツ(フタ付)に入れて良くかき混ぜて下さい。黒顔料とバインダーが良く混ざって白い粉が見えなくなれば大丈夫です。



次に籾を計量し、ミキサーを止めて投入します。(危険防止の為)
(種籾は多少濡れた状態でも大丈夫です。)



■1回目の投入
ミキサーを回転させ、黒顔料とバインダーの混合物3分の1を投入し、噴霧器を噴きながら造粒を開始します。回転速度を上げた方が籾の表面への付着が良好になります。



水は何回かに分けて噴霧し、多量にならないよう十分ご注意ください。多量になってしまった場合、コテ等で回転面を抑えてダマが無くなるようにして下さい。途中で粉末がミキサーの底に残留してないかを確認して下さい。

■2回目の投入
粉末がなくなりましたら、混合物3分の1を回転しているミキサーに入れて、同じように噴霧器で水を噴きながら造粒します。



■3回目の投入
粉末がなくなりましたら、最後の黒顔料・バインダー混合物をミキサーに入れて仕上げて行きます。
粉の表面状態がしまってきて黒光りし、ミキサー横表面の付着が取れて綺麗になり、粉末の残留が無くサラサラと籾の音が聞こえてくれば造粒終了です。(種籾同士がくっ付いたりしませんので、お水をしっかりと噴き掛けて仕上げて下さい。)



■乾燥方法
造粒時の余計な水分を取り除くためと養生のため、造粒後米袋(こめぶくろ)に入れて口を開けたまま保管するか、ネットに入れパレットの上に乗せて風通しの良い所で自然乾燥(陰干し)して下さい。(ブルーシートに広げなくても結構です。)

■保管方法
鳩胸・催芽籾のコーティング処理後自然乾燥させてから米袋・ネットで冷蔵保存(14℃以下)して頂きますと60日間は発芽率が落ちません。